

イベント案内・お知らせ

展示・開催中 企画展：「あきしまの鉄道」

○鉄道開通 150 年を契機に、青梅鉄道をはじめとする昭島市内の鉄道の歴史をご紹介します。

開催期間：令和 4 年（2022 年）7 月 20 日（水）～10 月 10 日（月）

展示資料：青梅鉄道線路之図 甲、書類資料、記念切符等

協力：青梅市郷土博物館、N の会

開館時受付 「化石調査相談サービス」

お手持ちの化石や鉱物を、専門の学芸員が調べるお手伝いをします（無料）。

受付日時：郷土資料室の開室日及び開室時間と同じ

受付方法：電話、直接来館での受付。1 日 1 回 1 人 5 点まで。

※ 担当学芸員不在時は調査相談の受付ができない場合がございます。ご来館の前にお電話等で確認いただけます。

※ 諸般の事情により、「ものしり化石塾 in アキシマエンス」は令和 3 年（2021 年）度をもちまして終了となりました。楽しみにしていた方には、誠に申し訳ございませんが、ご了承の程お願いいたします。

お知らせ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご協力をお願い致します

- ・37.5℃以上の発熱や体調不良の場合はご来場をご遠慮ください。 ・施設入口での検温をお願いいたします。
- ・ご入室の際はマスクを着用いただき、手・指の消毒にご協力をお願いいたします。
- ・密になるのを避けるため、入場制限を行う場合がございますので、ご了承ください。
- ・展示内容やイベント内容、開室時間、開館日など、新型コロナウイルス感染拡大状況により、予告なく変更となることがございます。予めご了承ください。最新の情報はホームページをご覧ください。お電話でお問い合わせください。

バックナンバー（過去の郷土資料室だよりをダウンロードできます）

下記 URL（アキシマエンスホームページ）または右のコードを読み込むことで、郷土資料室だよりを Vol 1 から最新号まで電子版（PDF）をダウンロードして閲覧できます。

https://www.akishimaensis.jp/guide/heritage_newsletters.html



郷土資料室利用案内

- 開室時間**
- * 郷土資料室
火～金 午前 10 時～午後 8 時
土・日・祝 午前 10 時～午後 6 時
 - * 郷土資料展示室
火～日・祝 午前 10 時～午後 5 時
郷土資料展示室見学の際は
郷土資料室スタッフにお声がけください。

- 休室日**
- 月曜日（祝日の場合は、翌平日）、年末年始

- お問い合わせ**
- *昭島市郷土資料室・郷土資料展示室
- 住所 〒196-0012 昭島市つつじが丘 3-3-15 アキシマエンス内
TEL 042-543-1523（市民図書館共通）
FAX 042-542-8002（市民図書館共通）
ホームページ https://www.akishimaensis.jp/guide/heritage_list.html
- *昭島市教育委員会 生涯学習部 アキシマエンス管理課 文化財係
- 住所 上記に同じ
TEL 042-519-5717
FAX 042-519-7456



- * JR 青梅線昭島駅、中神駅より徒歩 10 分
- * 立川バス（昭 21・22・23・24・26 系統）「昭島市民会館」より徒歩 5 分
- * A バス 北ルート「アキシマエンス」下車すぐ

編集後記
夏号（通巻第 6 号）を手にとってみていただきありがとうございます。次号は、冬の企画展と関連する資料をご紹介します予定です。お楽しみに！（学芸員 尾崎）

郷土資料室だより「鯨いさな」 令和 4 年度夏号（通巻第 6 号）
編集・発行 昭島市郷土資料室
〒196-0012
東京都昭島市つつじが丘 3-3-15
TEL：042-543-1523
FAX：042-542-8002
令和 4 年 8 月発行



昭島市郷土資料室企画展

あきしまの鉄道



令和 4 年 [2022 年]

7 月 20 日 ▶ 10 月 10 日

①令和 4 年（2022 年）現在の JR 八高線 ②昭和 45 年（1970 年）頃の八高線

昭島市郷土資料室にて、企画展「あきしまの鉄道」を開催しています。昭島の鉄道のはじまりから現在にいたるまでの道のりを振り返る企画展をぜひお見逃しなく！

学芸員 末廣

目次

- 特集記事
企画展資料からわかる！ 昭島に鉄道が通るまで
..... p. 2
- 郷土資料室トピック
～郷土資料室化石コレクション～ 有孔虫化石
..... p. 3
- イベント案内・お知らせ
郷土資料室利用案内 p. 4



企画展資料からわかる!

昭島に鉄道が通るまで

昭島市郷土資料室では、10月10日まで企画展「あきしまの鉄道」を開催しています。今回の特集記事は、企画展にて展示中の資料から、昭島の鉄道のはじまりとなった青梅鉄道（現：JR 青梅線）の歴史を振り返ります。

(学芸員 末廣)



図1 青梅線 左：昭和50年（1975年）頃
右：令和4年（2022年）現在 左図は鈴木文彦氏撮影

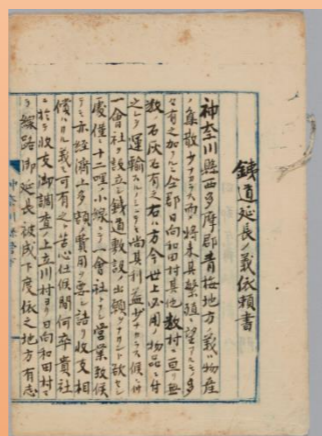
○ 昭島の鉄道前夜

昭島で最初に開通した青梅鉄道（現：JR 青梅線）は、はじめから開通が計画された鉄道路線ではありませんでした。

図2は、甲武鉄道（現：JR 中央線）に宛てて明治21年（1888年）に提出された、青梅地方へ路線延長を求める依頼書です。

結果的には、本依頼書では、甲武鉄道の青梅地方への延長は実現しませんでした。その代わりに、鉄道を建設する時には甲武鉄道が協力するという約束に繋がりました。

図2 鉄道延長ノ義依頼書
(昭島市指定有形文化財「中村家旧蔵文書一括」より)



○ 昭島初の鉄道となった青梅鉄道

「鉄道延長ノ義依頼書」の提出から3年後の明治24年（1891年）に、「青梅鉄道創立願」が出願されました。建設工事は、「鉄道延長ノ義依頼書」の件で交わした約束をもとに、甲武鉄道に委託して進められ、「青梅鉄道創立願」の出願から3年後の明治27年（1894年）に立川—青梅間で青梅鉄道が開通しました。



図3 青梅鉄道線路之図 甲 (昭島市指定有形文化財「中村家旧蔵文書一括」より)
青梅鉄道建設時に作成された図面で、立川駅～拝島駅の線路用地の状況が示されています。

今回、ご紹介した「鉄道延長ノ義依頼書」と「青梅鉄道線路之図 甲」は下記コードから高精細画像をご覧ください。

鉄道延長ノ義依頼書 青梅鉄道線路之図 甲



参考資料

- ・ 昭島市史編さん委員会, 1978, 昭島市史; 昭島市
- ・ 三村章, 2014, 昭島近代史調査報告書II 青梅鉄道昭島関係史料集; 昭島市教育委員会
- ・ 青梅鉄道資料調査会, 2014, 開館40周年特別展 青梅線開通120周年; 青梅市郷土博物館
- ・ 三村章, 2017, 昭島近代史調査報告書V ブックレット 2017 昭島消えた五つの鉄道; 昭島市教育委員会

～郷土資料室化石コレクション～ 有孔虫化石

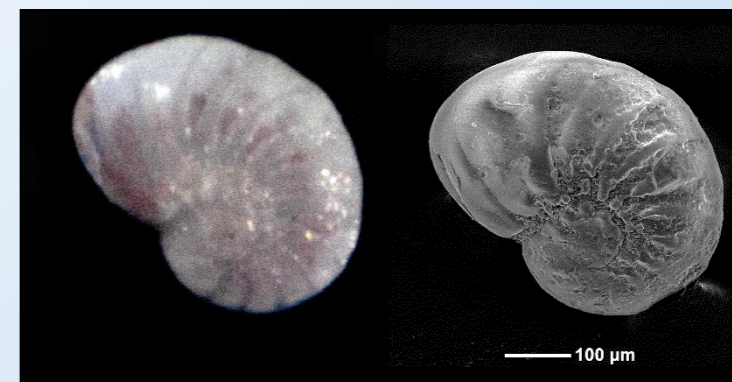


図1 アキシマクジラ発見地付近でみつかった有孔虫化石 (LMA-F1-1)
底生有孔虫と呼ばれる海底で生息する有孔虫の化石です (左：実体写真、右：電子顕微鏡写真)
詳しい種類は現在、専門の学芸員が調べています。

アキシマクジラ発見地付近のボーリング調査（建築物を建てる前に、穴を掘って地盤の状況や強度を調べる調査）の際に、掘削された堆積物から顕微鏡でみえる小さい化石“微化石”がみつかりました（図1）。今回は、アキシマクジラ発見地の地層でもみられる有孔虫化石について、ご紹介します。（学芸員 尾崎）

○有孔虫とは？

有孔虫は単細胞の原生生物（アメーバのような生き物）の一種で、炭酸カルシウムでできた殻をもっており、現在でも世界中の海で活動しています。大きさは0.1–1mm程の非常に小さい種類が多いです。沖縄のお土産として売られている「星砂」も有孔虫の一種です（図2）。



図2 星砂（見本）

○有孔虫からわかる、地層の時代と太古の環境

有孔虫の殻は微化石として堆積物中に保存されやすいため、一度に数百～千個体以上が採取することができます。有孔虫は化石種を含めると35,000種以上が知られており、その殻の形も非常に多様であるため、化石種が生息していた時代から地層の相対的な年代を調べることができます。

また、有孔虫は生息している環境に敏感で、水温や塩分の濃さに対応して生息している種類が異なること、有孔虫は生息中に海水を取り込みながら炭酸カルシウムの殻をつくる性質から酸素同位体比 ($^{18}\text{O}/^{16}\text{O}$) を用いた化学分析で当時の海水温がわかることから、有孔虫が生息していた当時の海の環境を調べることができます。

以上のことから、有孔虫化石は、地層の時代を推定できる示準化石、地層ができた当時の環境が推定できる示相化石としても非常に有用であることがわかります。

参考資料

- ・ 長谷川ほか, 1989, 地質学論集, 32, p.240-253
- ・ 長谷川, 1993, 化石 (日本古生物学会和文誌), p.55